

別紙 「ウェブサイトリニューアル・運用保守・運用支援業務 一式 調達仕様書（案）」に対する意見

No.	頁	項番号等	仕様書（案）の記載内容	意見/質問内容	意見/質問の理由	回答（日本学術振興会記入）
1	7,12	2.2.1	サイト規模	弊社調査では現行サイトのHTMLページ数は約1,900程度であり、仕様記載の約3,500ページと乖離が見られる。当該数値にはサブドメイン、アーカイブサイト、CMS非管理コンテンツ等を含む想定か。また、移行対象とする範囲（公開・非公開・外部連携等）を明確に提示いただきたい。	コンテンツ移行の対象範囲により作業量が大きく変動するが、現在の資料では正確な工数算定が困難であるため（サブドメインの取り扱いが不明。リンク切れやリダイレクトなどもあり正確なサイト規模が不明のため）。	CMSページリストをもとに算出しております。そのため、機械ツールによる抽出数とは差異が生じる場合がございます。最終的なページ数については、改めて仕様書へ反映いたしました。
2	12,13	3.3	コンテンツ移行	コンテンツ移行は「単純移行ではなく改善を伴う」とあるが、アクセシビリティ修正・構造改善等の対応レベル（全面改修／軽微修正／例外扱い条件）について具体的な判断基準を提示いただきたい。	改善レベルによって工数が大幅に変動し、価格提案および体制設計に影響するため。	「改善」の内容としては、現サイトの課題を整理し、その課題の改善に繋がるようリニューアルを行っていただくため、調達時の各業者の提案によって、対応レベルは異なると想定しています。また、仕様書で具体的に触れている箇所のほか、最低限のラインの作業の例としては、あるページの見出し構造、リンク表記等がウェブアクセシビリティ上問題がある場合、単純移行するのではなく、適切な構造・表記とした上で移行するといったことを本会では想定しています。
3	21～28	3.5、3.6、8.1	マニュアル・研修	動画形式のマニュアル・eラーニングコンテンツについて、具体的な本数、1本あたりの想定尺、字幕・ナレーション要否、アクセシビリティ対応（字幕・手話等）の要件を明確にいただきたい。また、評価項目（加点对象）として位置付ける予定があるかご教示いただきたい。	動画制作は品質による差が大きく、仕様・評価が明確でない場合、適切な提案が困難であるため。また、当該領域は実効性向上に寄与するため。	仕様書に追記いたしました。
4	20	3.8	業務連絡・Backlog	CMS上で業務完結する方針と、Backlog併用の運用が併記されているが、移行後の運用においてどこまでをCMS内で完結させる想定か（承認・依頼・素材管理等）、全体フローを提示いただきたい。	ワークフロー設計・権限設計・開発費用に直接影響するため。	Backlogの利用については、以下の使い方を想定していますが、Backlogの利用は必須要件ではなく、他のツール・システム等で代用できる場合はBacklogを使わなくても問題ありません。 ①委託業者と本会の業務連絡用ツール ②サイト更新時のデータの受け渡しの場
5	38	機能要件一覧：レビュー	CMS機能 承認フローについて	承認フローについて、部署単位・案件単位での柔軟なカスタマイズ（承認段階数・権限）の要件を明確にいただきたい。また現行運用の課題・改善要望の詳細資料をご提示いただけないか。	実運用に適したフロー設計が必要であり、要件定義精度が成果品質に直結するため。	承認フローについて、仕様書および機能要件に追記いたしました。現行の課題については、職員向けに実施した会内調査の結果資料を参考資料として提供いたします。
6	7	2.2.1	コンテンツ	リンク切れページが存在するが、これらの扱い（削除・修正・再構成）について方針を明確にいただきたい。また、アーカイブサイト（例：外部保存サイトへリダイレクトされるページ）の取り扱いについても明示いただきたい。	NO1にある事前調査によれば現状サイトにはリダイレクト（国会図書館※ヘリダイレクト）やリンク不整合が存在しており、移行時の扱いにより品質・工数が変動するため。 ※https://warp.ndl.go.jp/	リンク切れページについては、おそらく各事業担当者も気づいていないものが放置されていると考えられ、どの対応が必要かは個々で異なると想定されます。なお、リンク切れについては、できるだけサイトの移行作業までに修正を行いたいと考えています。また、現在の運用としては、本会として責任を持って残すべき情報はサイト内にページを作り、参考程度の古い情報等は国立国会図書館のページにリンクしてもよい、としています。
7	22	5(1)	サブサイト	サブサイト（3サイト）について、規模（ページ数）、コンテンツ種別（文章／画像／動画）、更新頻度等の参考情報を提示いただきたい。またデザインは、（共通の項目やデザイン要素はなく）完全独立ということか。	サブサイト構築は設計・デザイン・保守コストに大きく影響するため。	概要を仕様書に追記いたしました。なお、デザインについては担当部署の希望によって異なる想定なので、完全独立とお考え下さい。
8	13	3.3.4	品質担保に関する事項（アクセシビリティ対応）、コンテンツ移行要件	JIS X 8341-3:2016への適合対象範囲について確認したい。 ウェブサイト上で提供されるPDF等の既存添付ファイルについて、移行時点でタグ付きPDF化等を実施し、全面的にアクセシビリティ対応を行う必要があるか示してもらいたい。 特に既存資産の取扱い（全件対象とするか、優先度に応じた対応とするか、新規・更新コンテンツに限定されるか）の対象範囲の明確にしてほしい。	工数および費用への影響が大きく異なるため。	現時点では、PDF等の各ファイルのアクセシビリティ対応は現実的ではないため想定していません。
9	7	2.1.2 (5)	【CDN（Content Delivery Network）】現在、本会では CDN を導入し運用している。本リニューアルにおいても CDN の導入を必須とし、CDN 導入に係る初期費用および本番切替後 5 年間の利用料を見積に含めること。	5年間のCDN利用料を見積に含めるにあたり、月間最大800万PVに対する「トラフィック量の想定値（ピーク帯域、月間データ転送量、接続リクエスト数等）」および「WAFやDDoS防御等のセキュリティ要求基準」の詳細をご提示するか、現行CDNの契約規模を開示してほしい。	各事業者が同一のトラフィック・セキュリティ条件のもとで適正かつ透明性の高い見積を作成し、最適な費用対効果（価格点評価）を実現するため。前提条件が曖昧な場合、事業者間で安全マージンの取り方に大きな乖離が生じ、価格競争の公平性が損なわれる恐れがある。	AWS CloudFront（約1TB規模）+ AWS WAFを利用し、一般的なWeb脆弱性対策およびレート制御を実施しています。DDoS対策はAWS Shield StandardとWAFにより実装済みです。詳細な設定値等については差し控させていただきます。詳細な参考として、CDN（CloudFront）のデータ転送量実績は以下のとおりです。 ・日間最大：約186GB ・日間平均：約143GB （令和8年5月～7月実績）

10	全体	—	運用支援	更新業務について年間246ページの代行実績が提示されているが、繁忙期／閑散期の更新量の分布や、ピーク時の最大件数の参考値を提示いただきたい。	運用支援体制（人員・SLA）の設計に必要なため。	実績ベースだと、少ない月は0ページ、多い月は70ページ超えですが、特に多い月は非CMSページのCMS化作業を業者チームに依頼していたことが影響しており、純粋なページ更新の作業自体は、多くても20ページ程度／月となっています。
11	17	3. 6. 1 ウェブアクセシビリティ研修	(4) eラーニング	eラーニングの具体的な実施要件（教材形式、動画・音声利用の有無、理解度確認方法、実施回数、想定時間等）をご教示ください。あわせて、現在採用しているeラーニング環境（利用製品・サービス、運用方式、教材形式等）についてご教示ください。	eラーニングの実施方式および既存環境との連携・継続利用可否により、教材準備、配信方法、アクセシビリティ対応、移行対応範囲、運営方法等が異なり、費用および工数算出に影響するため。	仕様書におけるeラーニング含む研修関係の記載を見直し、加筆修正を行いました。詳細は仕様書をご確認ください。 現在、全職員向け（約40分）・承認者向け（約20分）の2コース（各10分程度）を用意しています。動画およびテキスト教材を用い、受講後に10問程度の確認テストを受けてもらっています。 専用のeラーニングシステムは利用しておらず、イントラネットを活用した運用としており、教材の配信・テスト実施は本会で行之、業者による納品物は動画、資料、確認テスト問題となっています。
12	18	3. 6. 2 操作研修	(4) eラーニング	eラーニングの具体的な実施要件（教材形式、動画・音声利用の有無、理解度確認方法、実施回数、想定時間等）をご教示ください。あわせて、現在採用しているeラーニング環境（利用製品・サービス、運用方式、教材形式等）についてご教示ください。	eラーニングの実施方式および既存環境との連携・継続利用可否により、教材準備、配信方法、アクセシビリティ対応、移行対応範囲、運営方法等が異なり、費用および工数算出に影響するため。	仕様書におけるeラーニング含む研修関係の記載を見直し、加筆修正を行いました。詳細は仕様書をご確認ください。 現在、CMS操作研修は対面研修のみ実施しており、補足資料として、イントラネット上にマニュアルやガイドラインと合わせて、更新の流れ（約12分）、ファイル掲載方法（約8分）の動画マニュアルを公開しています。
13	機能要件2-50	未来日付のページ及びサイト全体のレビュー	任意の未来日を指定して、その時点での記事ページをレビューできること。	要件としては、「ページおよびサイト全体の将来時点における表示内容を確認できるレビュー機能を有すること」程度へ表現を緩和いただく、または要件区分を「推奨」としていただきたく存じます。	「任意の未来日を指定して」の要件を字義通りに解釈した場合、ページ単体だけでなく、関連記事・カテゴリー一覧・サイト内導線等を含めた整合性維持が必要となるため、実装および試験負荷が大きくなります。 たとえば、「2027/4/1公開予定の記事」と「2027/5/10公開予定の記事」が存在する場合、「2027/4/30時点のサイト状態（4/1公開予定記事は表示されるが、5/10公開予定記事は表示されない状態）」を整合性を保って再現する必要があります。 一般的なCMS製品では、ページ単位の公開予約レビュー機能は提供される一方、サイト全体を任意未来日時時点で整合性を保って再現する機能は限定的であり、個別設計・個別実装となるケースが多く、そのため、本要件を必須要件とした場合、採用可能なCMS製品や提案可能な構成が限定されます。	ご意見を踏まえ、当該要件の記載を修正します。 本要件は、任意の未来日時点におけるサイト全体の表示状態を完全に再現することまでを必須として求める趣旨ではなく、公開予約または公開終了予約を設定した記事について、公開前に表示内容を確認できることを主な目的とするものです。 そのため、機能要件2-50については、ページ単位の公開前レビューを前提とし、トップページ、新着一覧、カテゴリー一覧等の主要な表示箇所における表示状態の確認については、CMSの標準機能または運用上の代替手段により確認可能であれば可とするよう、表現を緩和します。 あわせて、当該要件の要求区分は「推奨」に変更します。
14	機能要件2-52	未来日付のページ及びサイト全体のレビュー	任意の未来日時を指定すると、その日時における個々のページの公開イメージをブラウザ上でページ遷移が可能な形（リンクをたどって）で確認できること。	要件としては、「将来時点のレビュー表示において、サイト内のリンク遷移も確認できること」程度へ表現を緩和いただく、または要件区分を「推奨」としていただきたく存じます。	機能要件2-50への意見の理由とほぼ同じですが、「任意の未来日時を指定し、リンク遷移を含めて確認できること」を必須要件とした場合、指定日時における個々のページだけでなく、遷移先ページ・一覧・関連記事・ナビゲーション等も同一の未来日時状態で整合させる必要があります。 とくに公開予約日や掲載終了日が異なるページが混在する場合、リンク先ごとに表示可否が変わるため、サイト全体としての公開イメージ完全に保証することは難しく、実装・試験範囲が大きくなります。 一般的なCMS製品では、ページ単位の公開予約レビュー機能は提供される一方、サイト全体を任意未来日時時点で整合性を保って再現する機能は限定的であり、個別設計・個別実装となるケースが多いと考えます。そのため、本要件を必須要件とした場合、採用可能なCMS製品や提案可能な構成が限定されます。	ご意見を踏まえ、要求区分を「推奨」に変更します。 本要件は、任意の未来日時点におけるサイト全体の表示状態やリンク遷移を完全に再現することまでを必須として求める趣旨ではありません。公開予約または掲載終了予約を設定したページについて、将来時点の表示内容や関連するリンク遷移を事前に確認できることを想定したものです。 そのため、CMSの標準機能または運用上の代替手段により確認可能であれば可とする表現に修正します。
15	機能要件3-5	リンク元・リンク先の一覧表示	作成者がリンク元、リンク先を一覧で確認できること。	要件については、「ページ間のリンク関係（リンク元およびリンク先）を把握できること」程度へ表現を緩和いただく、または要件区分を「推奨」としていただきたく存じます。	「リンク元」の一覧表示は一般的なCMSでも対応例がありますが、「リンク先のみ」を抽出して横断的に一覧化する機能は限定的です。 とくに本文HTML内リンク・動的生成リンク・関連リンク等を含めて正確に一覧化する場合、リンク解析処理や整合性管理が必要となり、実装および試験範囲が大きく拡大します。また、リンク先情報自体は編集画面確認可能であり、専用機能として必須化しなくても運用上の確認は可能と考えます。 そのため、本要件の「一覧で確認できることを必須要件とした場合、採用可能なCMS製品や提案可能な構成が限定されます。	ご意見を踏まえ、要求区分を「推奨」に変更します。本要件は、ページ間のリンク関係を運用上確認できることを目的としたものですが、本文HTML内リンク、動的生成リンク、関連リンク等を含めてリンク元・リンク先を網羅的に一覧化することまでを必須とした場合、対応可能なCMS製品や実装方式が限定される可能性があります。 そのため、リンク元・リンク先の確認については、CMS機能またはリンクチェック等の代替手段により確認できることが望ましいという位置付けに修正します。

16	機能要件 3-13	カテゴリーページの生成	ページが属するカテゴリーまたは階層に応じて、カテゴリーページを自動生成できること。また、自動生成に加えて、任意のカテゴリーページを作成・編集できること。	「カテゴリーページを自動生成できること」について、カテゴリー単位の一覧ページ整備を容易にすることを目的としているか、ご教示ください。 その場合は、「カテゴリーや階層ごとに対応する一覧ページを作成・管理できること。」程度への表現緩和、または要件区分を「推奨」としていただきたく存じます。	カテゴリーページの「自動生成」と「任意編集」を両立できるCMS製品は限定的であり、製品によってはいずれか一方を前提とした設計となっているケースがあります。 本要件は、カテゴリーごとのインデックスページ未整備を防止する意図と理解していますが、一覧ページの整備自体は運用設計で担保可能な内容であり、自動生成を前提とした場合、不要なカテゴリーページまで生成される可能性があります。結果として、インデックス品質低下や意図しない一覧ページ公開につながるリスクがあります。 そのため、本要件を必須要件とした場合、長期的なサイト運用やCMS設計の自由度低下につながるほか、採用可能なCMS製品や提案可能な構成が限定されます。	ご意見を踏まえ、当該要件の表現を修正します。 本要件は、カテゴリーページを必ず自動生成することを求める趣旨ではなく、カテゴリーまたは階層ごとに、利用者が情報を一覧・把握しやすいページを作成・管理できることを目的としています。 そのため、「カテゴリーページを自動生成できること」という表現は緩和し、カテゴリーや階層に応じた一覧ページを作成・管理できることを要件として整理します。自動生成機能については、CMSの標準機能として対応できる場合に評価する「推奨」の位置付けとします。
17	20	3.8	プロジェクト管理ツール（Backlog）を、データ共有および業務連絡の場として使用することを基本とする。	アカウントはご用意いただけるのでしょうか。	弊社で準備が必要な場合、費用がかかるため。	アカウント作成用のメールアドレスをご教示いただければ、アカウント発行は本会にて行います。
18	23	5(3)	ひと目でわかる学振（年1回程度の更新対応を想定）	お客様で更新可能なCMSの対象ページでしょうか。また、弊社でデーターズを提供いただいて差し替えるイメージでしょうか。	サイト更新作業の代行対応のページ数に影響があるか確認するため。また、適正な費用見積のため。	現在の「ひと目でわかる学振」はCMSで変更できないページとなっており、運用保守業者（BFP社）にデザイン、テキスト、Altを更新いただいています。
19	27	8.1	システム構成図、機器等構成表	サーバはクラウド想定のため、機器の購入は発生しない認識でお間違いないでしょうか。	正確な仕様・要件を確認するため。	機器の購入は発生しない認識でお間違いないと思います。
20	26	6(6)	・ワーク・ライフ・バランス：以下のいずれかの認定を受けている、ワーク・ライフ・バランスを推進する企業であることが望ましい。 ・女性活躍推進法に基づく認定（えるぼし認定・プラチナえるぼし認定等） ・次世代法に基づく認定（くるみん認定・プラチナくるみん認定等） ・若者雇用促進法に基づく認定	いずれかの認定を受けていれば、認定のない資格があっても問題ない認識でお間違いないでしょうか。	正確な仕様・要件を確認するため。	加算項目のため、全ての認定がない（加算0点）場合でも問題ございません。なお、複数の認定等に該当する場合は、最も配点が高い区分により加算を行います。 例：えるぼし(10点)+えるぼし認定段階3(8点)+くるみん(6点)+若者雇用(8点)→加算10点 えるぼし(10点)+くるみん(0点)+若者雇用(0点)→加算10点
21	6	2.1.2	(1) CMS 静的ページによるウェブサイト構築が可能であり、作業者がウェブアクセシビリティに関する専門知識を有していない場合でも、システム上の仕組みによりウェブアクセシビリティ対応が確保できるCMSとする。CMSにおいては、当該翻訳ページ（英語ページ）へ切り替えるためのリンクを掲載できる機能を	英語ページの作成時、管理画面内に機械翻訳の機能は不要という認識でよろしいでしょうか。	適正な費用見積のため	機械翻訳の機能は想定していないため不要です。
22	6	2.1.2	(3) Google Analytics を利用すること。あわせて、全テンプレートに計測用コードを適切に反映すること。計測結果は本会において確認可能な状態とし、継続的にレポートを提出すること。	「レポート」とはどういった内容を記載する想定でしょうか。可能であればどういった計測をされているかを明記いただき、必要なレポートについて明記いただけると助かります。	正確な要件を確認するため	サイト全体および事業別のアクセス状況として、表示回数、ユーザー数、セッション数、ファイルダウンロード数、平均エンゲージメント時間、イベント数、本会が指定する重要イベント数等を含めることを想定しています。
23	7	2.2.1	・HTML ファイル：約 3,500 ページ ・PDF ファイル：約 83,000 件 ・Excel ファイル：約 1,000 件 ・Word ファイル：約 2,700 件	これは日本語ページ、英語ページ合わせた数字ということでしょうか	正確な要件を確認するため	合算の数字となっています。
24	8	3.1	効率的で職員の負担が少ないサイト運用を実現すること。起案から公開までシステムにより対応できるCMSとすること。 ・起案から公開までの一連の作業をシステム上で完結できるCMSとすること。	説明会でもご意見としてあがっていましたが、現在のワークフローは backlog と連携していらっしゃるとのこと。今後は一本化をご希望ですが、画像の受け渡しは別でもいいとおっしゃられていたかと思います。ワークフローで行いたいこと（もしくは現在行っていること）をフロー図などを作成いただけると助かります。	正確な要件を確認するため	入札の際に、本会内部用のマニュアル類を希望する業者には提供する予定であり、その中に承認のフロー等を記載しているので、そちらをご確認ください。なお、マニュアルを見れば分かるのですが、本会の現在の作業フローがBacklogとdcotで行う作業が入り組んでおり、そこをできるだけシンプルにしたい、という意図での一本化になります。

25	9	3.1	(3) 事業ページの改善 以下の 3 つの事業ページについては、本会からの要望を踏まえ、本リニューアルの対象範囲に含め、構成、デザインおよび掲載内容の見直しを行ったうえで、リニューアルを実施すること。	この3サイトについては、7ページの3,500ページに含まれているでしょうか。含まれていないようであればそれぞれが何ページあるか明記いただけないでしょうか。	正確な要件を確認するため	3つの事業ページについては3,500ページの中に含まれていません。各事業の現時点でのページ数は以下となります。 ・科学研究費助成事業：404ページ ・特別研究員：70ページ ・外国人研究者招へい事業：招へい事業に含まれる各事業も含んだ合計で116ページ
26	10	3.2.1	(3) 事業ページの改善 以下の 3 つの事業ページについては、本会からの要望を踏まえ、本リニューアルの対象範囲に含め、構成、デザインおよび掲載内容の見直しを行ったうえで、リニューアルを実施すること。	この3サイトについては、7ページの3,500ページに含まれているでしょうか。含まれていないようであればそれぞれが何ページあるか明記いただけないでしょうか。	正確な要件を確認するため	上と重複しているため省略します。
27			・ 科学研究費助成事業 https://www.jsps.go.jp/j-grantsinalD/	こちらのURLをクリックすると404になります。 正しくは全て小文字のようなので、修正いただけますでしょうか。 https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/	正確な仕様を確認するため	仕様書を修正いたしました。
28	11	3.2.4	(4) ウェブアクセシビリティの改善および次期基準への対応 現行サイトが抱えるウェブアクセシビリティ上の課題を改善するとともに、今後予定されている JIS 規格改正を見据え、国際基準である WCAG2.2 への対応を実施すること。 ・ 認識性、操作性および構造表現に関する不整	https://www.jsps.go.jp/j-sitepolicy/webaccessibility/test-result.html を拝見しますと、「1.4.3コントラスト（最低限レベル）」に× があります。この原因が画像だった場合、元の画像のご提供が可能かどうか明記をお願いします。	適正な費用見積のため	コントラスト不備の指摘を受けた箇所は、画像等についてはトップページ (https://www.jsps.go.jp/) のカルセル画像、学振コンテンツの画像（特にマウスオーバーした際に色が薄くなる仕様が不適切）、その他各事業ページで利用している概略図、サイトの機能関連では検索ボックスのプレースホルダー文字などがあります。 画像は試験時からいくつか入れ替わっていますが、個別にこの画像の元データが欲しい、という要望があれば、担当部署に連絡の上、データ提供は可能な見込みです。
29	17～19	3.6.1 3.6.2	(4) e ラーニング	現状貴会でご利用になっているeラーニングは、どれくらいの時間のものが多いか、形式は何かなどイメージできる情報の明記をお願いします。 想定されているのは、説明会を単に録画したものではないというお話があったかと思いますが、イメージしやすい形で明記いただけるとありがたいです。	正確な仕様を確認するため適正な費用見積のため	No.11と同様の質問のため省略します。